

# 注目集まるフィリピン英語研修

新日本有限責任監査法人、大阪ガス、ローム、大林組、トピー工業

## 導入企業インタビュー

### EIEN グローバル人材育成研究所 澤田晃宏

1981年生まれ。出版社勤務。朝日新聞「AERA」記者を経て2012年、EIENに入社

フィリピン政府観光省によれば、フィリピンへの留学者数は2010年の約4000人から、13年は約6倍の約2万6000人まで急増している。人気の理由はマンツーマンというレッススタイルと、航空運賃なども含めると欧米の半分とも言われる留学費用の安さだ。

加えて2点、企業研修の際、必ず説明することがある。まずは、フィリピンには約500の英語学校があると言われるが、その大半が韓国資本の学校であるということ。2点目が、その韓国系学校の学生は約8割が韓国人であり、その韓国人の圧倒的多数が大学生や小中高生ということだ。

30ページの研修費用例を見ても明らかなおと、韓国系学校に費用面の魅力はあるが、カリキュラムや滞在施設など、あくまで韓国の学生を対象としたものである。

そこで日本のビジネスマンの要望に応え、EIENではホテル通学プランを設けたり、企業研修向けビジネス英語学校「EIEN Academy of English」(以下EIEN AE)を開校するに至っている。今回はそうした学校の違いについて書く紙幅はないが、EIENで英語研修を実施する企業の話から、フィリピン英語研修の魅力を探っていきたい。

## 年間150人をマニラへ

日本3大監査法人の1つ、新日本有限責任監査法人は、13年度よりEIENグループ校3校に年間150名の職員を送っている。年代は30代前後で、期間は4週間だ。導入経緯について、人材開発本部・育成部の高須邦臣さんはこう話す。

「長年、年間で約70名をアメリカ、イギリスに1カ月派遣してきました。帰国後に成果報告の一環として英語でプレゼンをしてもらうのですが、正直ショックを受けました。1カ月で<sup>りゅうちょう</sup>流暢に話せるようになって帰ってくるとは思いませんが、それにしてもこんなものなのかと。参加者に話を聞くと、欧米のグループレッスンではシャイな日本人は発言の機会も少なく、1日通して実際に英語



「EIEN AE」校マンツーマンブース



マンツーマンレッスンの様子

を話すのは10分程度……。これでは成果が出ないのも当然です」

日本企業の海外展開が加速するなか、会計士にもグローバル化が強く求められている。いわば「インセンティブ旅行のような側面もあった」（高須さん）研修に危機意識を強く持っていた。

そこで浮上したのがフィリピンでの英語研修だった。懸念として上がったのは治安だ。

「当初はセブ島を考えていました。リゾート地というイメージから、マニラより治安がいいだろうと。しかし、実際に視察に行ってみると、印象は変わりました。一昔前のマニラのイメージとは程遠い近代都市になったマニラがそこにありました。視察中、危険や不安を感じることは一切なく、ここなら安心して職員を派遣できると思いました」

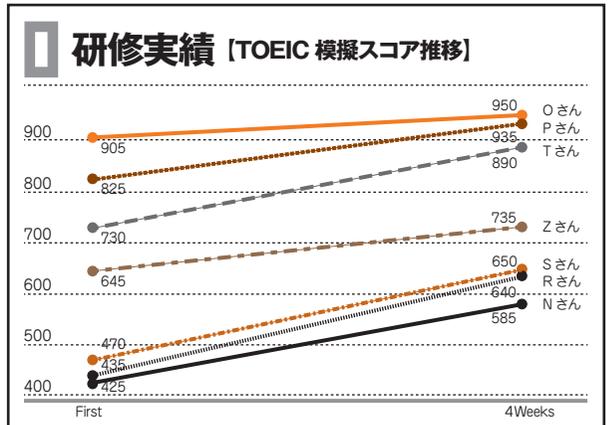
EIENではセブ島でも学校を運営しているが、セブ島の学校を選ぶ企業は稀だ。そもそも、会社



マニラの学校周辺の街並み



企業研修はホテル滞在が主流



「EIEN AE」校では初日と最終日にTOEICの模擬試験を実施。グラフは4週間のスコア推移。短期での成果も出る

のお金でリゾート地に社員を送ることに抵抗を持つ企業も多い。また、日本とマニラ間の直行便が18本あるのに対し、セブ島は2本（2014年7月現在）。アクセスの面で避ける企業もある。

しかし、最も大きな理由は講師の質だ。

「視察時にマニラとセブでトライアルレッスンを受けましたが、ビジネス英語にしっかり対応できる講師が揃っているという観点からは、マニラのほうがふさわしいと感じました。考えれば当たり前の話ですが、都会であるマニラのほうが人口も多く、優秀な講師が集まりやすいと思います」

### マンツーマンレッスンが決め手

視察を終え、同法人ではトライアルで職員数人をマニラに派遣した。研修に参加した職員の声を聞き、マニラでの研修を決定したという。

「一番の目的としていた『英語を話すことへのハードルが下がった』という声を、ほぼ全員の参加者から聞くことができました。あとはコストです。欧米に派遣していた時と同じ予算で、フィリピンなら倍の人数を参加させることができます」

高須さん自身、トライアルレッスンを何度か受けている。フィリピン人講師について、こう話す。

「欧米人だと無条件に萎縮してしまう部分もありますが、フィリピン人講師は明るく、ホスピタリティ精神が高い。マンツーマンレッスンで、こちらが話せなくても、口から言葉が出るようにう

## 特別レポート 英語研修最新事情

### 韓国系学校 研修費用例（4週間）

マニラ「CNN」校



#### ■プログラム費用

18万5,000円

(Intensive course / 1人部屋)

#### 【料金に含まれるもの】

授業料・滞在費・食費（3食）・ランドリー費用・空港ピックアップ

#### 【料金に含まれないもの】

入学金・滞在手配料・SSP発行費・学生ID発行費・テキスト代・光熱費・航空券代・海外保険料

### 日系学校 研修費用例（4週間）

マニラ「EIEN AE」校



#### ■プログラム費用

35万8,000円

(General course / HOTEL)

#### 【料金に含まれるもの】

授業料・ホテル滞在費・朝食・空港ピックアップ・空港センディング

#### 【料金に含まれないもの】

入学金・滞在手数料・SSP発行費・学生ID発行費・テキスト代・航空券代・海外保険料

まく誘導してくれる。日本人は『話せないから、話さない』のではなく、『話さないから、話せない』のだと痛感しました」

研修期間中に腹痛等で体調を崩した職員はいたが、150名の職員の研修は無事終了した。同法人では今季もフィリピン研修を継続している。

昨季、研修に参加した職員のTOEICスコアは研修後に最高で330点、多くの参加者が100点前後アップした。本来の成果も多数ある。

「これまで海外出張で通訳をつけていた職員が、1人で対応するようになった。海外との電話会議に職員が率先して担当するようになった。そんな声がたくさん聞こえて来ます」

ガス会社大手の大阪ガスも昨年からフィリピンでの英語研修を取り入れている。コスト面の魅力はもちろんだが、講師、マンツーマンが大きな決め手となっている。

人事部の井村香央里さんは、こう話す。

「ビジネス英語と言っても業種や職種によって求められるものも変わりますが、個人個人にあったレッスンにカスタマイズできるのがマンツーマンの魅力です。また、フィリピン人講師は第二言語として英語を学んでいるため、『どこでつまずきやすいか』という点もわかってくれます。これはネイティブにはない大きな強みだと思います」

### 4週間で300点アップ

同じくフィリピンでの英語研修を実施する半導体・電子部品メーカーのローム。人事部の橋本里絵さんは、マンツーマンの魅力をこう話す。

「会話の実践経験がない人が対象となっています。グループクラスに入ると発言できず、英語嫌いになって帰ってくる可能性もあります。日本人はシャイな性格ですので、短期間で効果を上げるには、マンツーマンが効果的と考えます」

同社ではこれまでの実績として、スタートが

TOEIC300点台の社員でも、4週間の研修で全員が研修後に600点をクリアしているという。

マンツーマンの魅力は、研修期間の短縮という意味も含んでいる。

ゼネコン大手の大林組では、これまで国内の英語学校に10週間通わせる英語研修を実施していた。人事部の中河和久教育課長はこう話す。

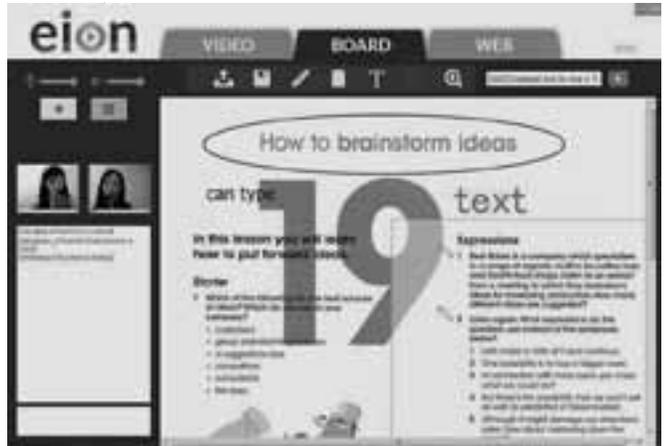
「業務を離れ、1日7時間のグループレッスンを国内で受けてもらっていました。グループレッスンで実際に話す時間は、長く見ても半分でしょう。その点、フィリピンなら1カ月で180時間近いマンツーマンレッスンが受けられます。国内研修と費用が変わらない上、会話量も多い。社員が10週間抜けるのか、4週間抜けるのかは大きな違いです。VISA取得に関してもフィリピンは事前手続きもなく、すぐに渡航できるのが魅力です」

鋼材や自動車・建設機械用部品などを製造販売するトピー工業は、部長クラスの社員も研修に参加させている。社員部の杉村香織さんはこう話す。

「影響力のある人を研修の対象とすることで、中堅若手層に『グローバル化していくのだ』という会社の意思を伝えたいという狙いもあります。職位の高い社員を派遣するにあたり、『EIEN AE』校を選んだ理由は、他社のマネジメント層も派遣されており、高いレベルで学びあえる仲間がいるということ。ビジネス経験のある講師が多く、ビジネス英語をしっかりとレッスンしてもらえることが挙げられます」

トピー工業では事前オンラインレッスンにより、英語に対する抵抗感を取り除くなど、現地でのパフォーマンスを高める工夫もしている。

今回インタビューした5社を含め、EIENが研修を担当している企業では、20代の若手が対象となることはごく稀だ。グローバル化が巷間叫ばれ、新入社員の英語力は上がっている。研修の対象となるのは主に30代の幹部候補社員、または40代、50代のマネジメント層だ。



オンライン学習システムを利用し、研修前後のオンラインレッスンを取り入れる企業が増えている

その点、フィリピンはマンツーマンレッスンであり、大人でも落ち着いて学習に取り組むことができる。企業研修向けビジネス英語学校「EIEN AE」では開校時、学生を入れないことを決めた。大人が集中して学習する環境をつくるためだ。研修生の平均年齢は常時33歳くらいである。

ある程度の職位にある社員の研修の場合、人事サイドとしては若者で溢れる欧米の語学学校には送りづらいという本音は必ずあるだろう。

今後も、ミドルマネジメント層の研修を中心に、まだまだフィリピンでの英語研修は増えていくと筆者は予想している。

### 株式会社 EIEN

マニラに現地法人を持ち、マニラ・セブで4校を運営。80社を超える企業研修実績がある。

URL <http://www.eienjapan.com/>